

3 道徳教育の充実

道徳教育は学校全体の教育活動で取り組むものです。そこで、各学校では、道徳教育の別業を作成し活用していただいているところです。

道徳の教科化に向けての答申も示されました。特別の教科「道徳」(仮称)がスムーズにスタートできるよう、道徳の授業改善について考えてみましょう。

(1) 道徳の授業改善

道徳の授業づくりで、「どんな授業(発問)をしたらいいかわからない」、「児童・生徒の意欲を高めることが難しい」、「マンネリ化の授業になっていってしまう」、「国語の読み取りになっていってしまう」、「学級の実態に合わせて資料を変更した」などの声を耳にします。

道徳の授業は、系統的・発展的に進めていくことが求められています。心に響く道徳の授業にするために、資料選択と資料分析、発問の工夫を中心に考えてみましょう。

年間指導計画に基づいて授業の展開を！

道徳の授業は年間計画に基づいて授業をすることが大切です。道徳の時間は、学級で起きた問題を解決するために、即対応する学習ではありません。安易な計画の入れ替えはやめましょう。(教科の学習では、わり算をしていてひき算ができないので次の時間単元を入れ替えてひき算の学習する、ということはありません。道徳の時間も同じです。)

子どもの視点で資料選択・資料分析を！

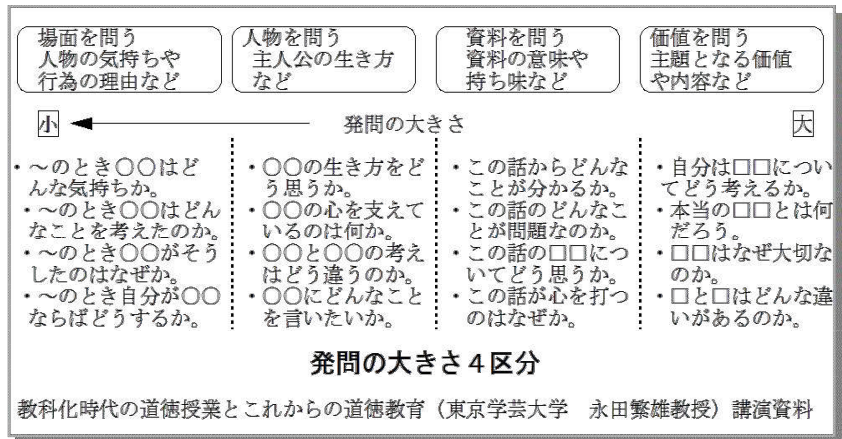
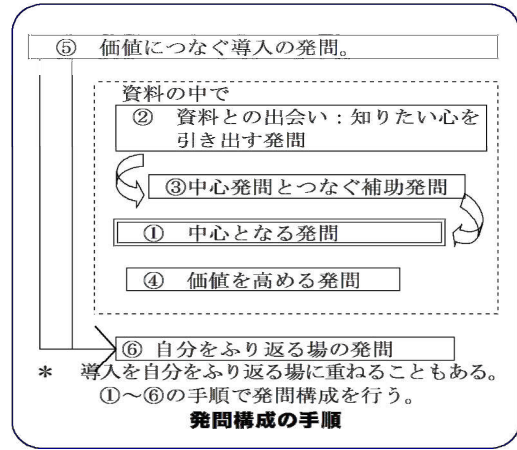
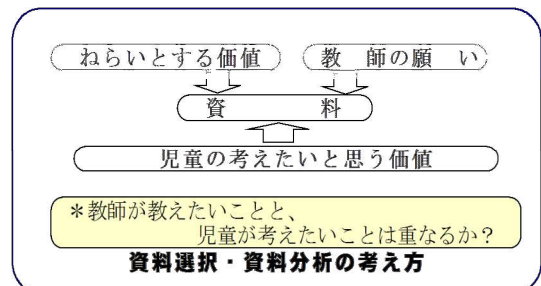
道徳の授業で大切なことは、資料選択・資料分析です。資料は、特に「子どもが問題意識をもって考えられるものか」、「教師の思いや願いが子どもに伝わる資料であるか」など常に子どもの姿を想定しながら、資料選択・資料分析を行うことが大切です。指導者の願い、ねらいとする価値が子どもが知りたい価値と重なる資料が、道徳の授業を支えるという視点で資料分析を行っていきます。子どもの視点で教材研究をすることが必要です。

中心となる発問から考えた発問構成を！

発問構成の手順については、小学校学習指導要領解説 87 ページにも示されています。授業のねらいに強くかかわる中心発問を最初に考え、それを生かすその前後の発問を考え、全体を一体的にとらえることが有効です。その学習の中で、子どもが自ら問いを発したり、学級に学習問題を提起したりする授業展開も考えられます。

発問の大きさを意識した授業づくりを！

発問には、「場面発問」、「テーマ発問」があります。子どもに「価値について追求する発問」をすることで、国語のような読み取りの授業を脱却することができます。発問の大きさを意識して授業づくりに取り組んでいきましょう。



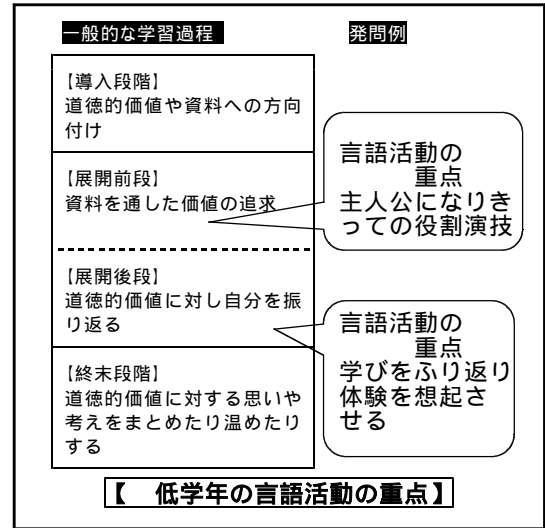
【御船町立御船小学校の実践から】




御船小学校では、発問と言語活動を意識した授業づくりに取り組まれています。また、学年段階に応じて、「発問の大きさ」を意識した授業づくりが展開されています。

(展開前段での発問)

低：主人公になりきっての役割演技
 中、高：価値観の異同を話し合う、テーマ性のある発問

低学年では、特に主人公になりきるなど、場面を問う発問で授業が展開されています。



過程	学習活動	時間	教師の発問・指示 予想される児童の意識	児童の反応
ふ 展 開 前 段	2 資料「かぼちゃのつる」を視聴し、話し合う。	30	 <p>みんなに注意されたとき、かぼちゃさんはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>みんななら、かぼちゃさんに何と言いますか。おひさまになって伝えましょう。</p>	<p>つるがくんくん伸びていくよ。</p> <p>みんなの言うことを聞いてよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> いやだな。うるさいな。 そんなに言わなくてもいいじゃん。 そんなこと言わないで。 頭にくるなあ。 みんなの言うことを聞いてあげてよ。みんないやがっているよ。つるを伸ばすのをやめて。 つるを伸ばしたら車にひかれるよ。 道路にはみ出したらけがするよ。 みんなのじゃまになるよ。だからしないでよ。
	<p>(1) みんなに注意されたときのかぼちゃの気持ちを考える。</p> <p>(2) かぼちゃに伝えたいことを考え、太陽になって役割演技をする。</p>  <p>みんなのじゃまになるよ。</p> <p>(3) つるが切れて泣いている時のかぼちゃの気持ちを考える。</p>	<p>つるが切れて泣いているかぼちゃさんはどんなことを思っているでしょう。</p>		
ね 展 開 後 段	3 今までの自分を振り返る。	7	<p>周りの人のことを考えてわがママを我慢したことはありますか。</p> <p>写真を見て思いたそう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 痛いな。 やっぱりみんなの言うことを聞けばよかった。 みんなの言うことは大事なんだな。 つるをひっこめればよかった。 見学旅行でゾウの絵を描くとき、友だちが、「お先にどうぞ」と言ってくれた。 動物園でバスに乗るときに、友だちが「お先にどうぞ」と言ってくれた。
こ 終 末	4 教師の説話を聞く。	5	<p>先生も、わがママを言って友だちに迷惑をかけてしまった経験があります。</p>	

平成30年度から「特別の教科『道徳』(仮称)」として、道徳の教科化がスタートします。道徳の授業づくりはまだまだ苦手意識をもつ先生方も多いようです。資料選択・資料分析、発問構成など、子どもが輝く授業づくりに向けて、各学校で研修の充実を図っていきましょう。

(2) 熊本の心の活用

「熊本の心」は、すべての学校で年間指導計画に位置付けていただき、熊本の心を活用した授業を地域へ公開されています。「熊本の心」を活用することには、熊本のよさやすばらしさにふれ、熊本に生まれてよかったという郷土愛の心を育てたいという願いも込められています。そこで、できるだけ多くの資料に出会うためにも活用方法を工夫していくことが必要です。

本年度の熊本県道徳教育用郷土資料「熊本の心」活用事業研究推進校の甲佐町立乙女小学校の実践を紹介します。

【甲佐町立乙女小学校の実践から】

多くの資料にふれあうために〔資料の分類〕

年間35時間の道徳の時間に「熊本の心」だけで授業を展開することはできません。道徳の時間に使用できる資料の数は限られています。そこで、日本道徳教育学会名誉会長である横山利弘先生の指導を受けて、以下のように「道徳の時間に活用するもの」、「道徳の時間以外での活用するもの」、「家庭・地域での活用するもの」の3つに資料を分類して活用されています。

「熊本の心」の活用

学年	道徳の時間の活用	道徳の時間以外での活用	家庭・地域での活用
1	一日田植え 1- (1) おかあさんのプレゼント 1- (2) やしやわか 1- (4) やまのせいぐらべ 2- (3)	きゅうけい先生 4- (4)	ぬぎすてたぞうり 1- (1) 大きなぞみ 2- (1) かっぱのねがい 3- (2) オトクサボウ 4- (3)
2	光るえんがわ 1- (2) ぼくの町のたからもの 4- (5)	朝よみ タよみ 1- (2) 火たきのしごと 4- (2)	わんぱくまつじろう 1- (4) 「めいこにゃあどん」ときつね 2- (2) ろ花さんとぶくぶく水 3- (2) まつりにこめられたねがい 4- (5)
3	かけ足登校 1- (2) グレーの画家への道 1- (5) よみがえれ 八千代座 4- (5) 〔麻生原のキンモクセイ 自作資料 4- (5)〕	げたをほった子 1- (5) ずいかの半切れ 4- (3) 勝清と「彦」とんちばなし 4- (5)	元気な子 1- (2) 白魚の来る川 2- (4) 森の都 熊本 4- (5) ※関連 3- (2) 【千代の話 4- (3)】
4	大根の芽 1- (2) 布田保之介の心 4- (2) 千代の話 4- (3) ふるさとのたから 清和文楽 4- (5)	ふたつの道 1- (3) 道しるべ 2- (4) ぼくの町のたいこどり 4- (5)	ふるさとをえがく 1- (5) 電灯記念ひ 2- (4) はとと馬 3- (1) 美しい音色を求めて 4- (6)
5	たった一基のぼう納灯ろう 1- (2) 順子先生と少年 2- (4) カライモ博士 4- (4) ご先祖さまがつくった土地 4- (7)	鞠智城のなぞ 1- (1) ふるさとのハゼもみじ 1- (2) 金色の海 1- (6) 鎌をさがして 4- (5) 熱海の山かじ 4- (6) 横井の兄弟 4- (6)	金葉たび 1- (5) 書に乗りたい 2- (2) 自然とともに 3- (2) エンブリさん 4- (8)
6	九百九十九段め 1- (2) あきらめることは 無意味だ！ 1- (2) 人生の金メダル 2- (4) 地名を守る 4- (7)	太閤ののぼる穴 1- (2) 日蓮聖人と仏舍利塔 1- (2) ツボバナ 1- (5) 天草を救った代官 2- (5) 国宝「青井阿蘇神社」 4- (7) 幸野道 4- (7) 宝蔵 萩原堤 4- (7)	大関 栃光 1- (2) 今 君の瞳は輝いているか 2- (2) 版木は生きていた 3- (3) ふたつの祖国から世界へ 4- (8)

「道徳の時間以外での活用」については、朝自習や読み聞かせ、教科の授業で関連づけて使用されています。活用表に分類したことで、「熊本の心」を意識して活用されています。この資料の分類については、活用した場面の記録を残し、資料の分類内容を見直しながら更なる充実を図っていかれる予定です。

家庭・地域への啓発

ア 「熊本の心」読書カードの活用

「熊本の心」を積極的に活用した道徳の授業の工夫はもちろん、家庭や地域と一体となった道徳教育を展開していきたいと考え、「熊本の心」の親子読書に取り組まれています。

学校で取り組んでいる、毎月0が付く日の「ノーテレビデー」に、「『熊本の心』読書カード」を配付し、月1回の「熊本の心」親子読書を実施されて

熊本の心「読書カード」
1年 ()

	月 日	題材名	保護者感想	児童感想	印
記入例	10月30日(木)	ぬぎすてたぞうり	子どもと一緒に読みました。 「家でも自分から『きりん』をえらぶ」 ができていいです。	きりんをえらぶができてい ます。でも、こねからがらば りたいです。	
1	10月30日(木)	ぬぎすてたぞうり			
2	11月30日(日)	大きなぞみ			
3	1月30日(金)	かっぱのねがい			
4	2月20日(金)	ホトケサボウ			

* 毎月0が付く日はノーテレビデーです。日にちを指定しておりますが、0の付く前後の日でも構いません。他に興味深い題材があれば、差し替えても構いません。

います。この読書カードに記載されている各学年の資料名は、学年部で検討し家庭で読むのに適していると考えた資料を選定されています。保護者からは、「子どもと2人で久しぶりに同じ本を読みました。楽しかったです。自分の好きなことは最後までがんばってほしいです。」(3年「元気な子」を家庭で読んで)など、親子読書は大変好評だったということです。

イ 「熊本之心」の授業公開と教育講演会

乙女小学校では、全クラス「熊本之心」の地域及び保護者対象の授業公開を行い、その後教育講演会を実施されました。「熊本之心」を使った道徳の授業を地域や家庭に公開することで、「熊本之心」のよさを知ってもらうだけではなく、学校の道徳教育の推進状況についても公開することができたということです。また、親子で講演を聞くことで、講師の方の生き方、苦難なことから乗り越える強さなどを学び、家庭でも親子で考える貴重な時間になっています。

ウ 道徳通信の発行

「熊本之心」を活用した取組を広く保護者や地域の方々に知っていただくよう、道徳通信「乙女之心」を発行されています。各学年の授業の様子や道徳に関するアンケート結果、「『熊本之心』読書カード」に寄せられた感想等、子どもたちや保護者の生の声を掲載していくことで、家庭との連携を図られています。

エ その他の取組

道徳の学習で学んだことや地域学習で学んだことを「熊本之心集会」で発表し、他学年へ発信しています。

また、道徳の時間に学んだことを心の足跡として各学級が創意工夫をした掲示をすることで、「今のは〇〇さんと同じ気持ちだ」「この前考えた〇〇だ」など、学習を振り返る場になっています。



「熊本之心」は、実話資料です。実話資料では、リアリティや迫真性を生かして指導していくことが必要です。

資料について調べ、補助資料など活用していくことが大切です。乙女小学校の授業でも活用されていましたが、写真や映像、年表などを用いて現実の話であることを意識し、主人公の思いが表れた言動等を必要に応じて使用することも大切です。

熊本の資料であるからこそ、身近に入手できる情報やゆかりのある人などとの出会いも考えられます。それらの情報の中から、主人公の生き方、考え方を伝えることもできます。

今後も、「熊本之心」を通して、熊本のよさを伝えていきましょう。

道徳の教科化に向けて様々な情報が発信されています。是非、ご確認ください。

「私たちの道徳」指導資料HP

(文部科学省)

道徳に係る教育課程の改善等について(答申)

(文部科学省 道徳 答申)

道徳授業実践DVD道徳教育の一層の充実のために(小学校・中学校)

(熊本県教育委員会)

郷土を愛する心を深めるために~道徳教育用郷土資料「熊本之心」活用事例集~

(熊本県教育委員会)

豊かな心を育む道徳教育の一層の充実を目指して

(熊本県教育委員会)